

資料1 決算の概況

1. 決算の概要

令和4年度は収益合計4,129,211千円に対し、費用合計4,009,382千円となり、119,829千円の純利益が生じました。令和3年度と比較すると、純利益額は119,829千円増加しています。純利益額増加の主な原因は、収益としては他会計補助金の増加、費用としては支払利息の減少です。令和4年度末の未処分利益剰余金は2,718,769千円まで増加しています。

資本金収入及び支出としては、建設改良費726,038千円に対して、522,400千円の企業債借入と566,350千円の資本費平準化債の借入を行いました。また、営業運転資金に充てるため、水道事業会計から300,000千円の借入を行いました。

2. 人口及び戸数

令和4年度末の水洗化人口は226,429人で前年度比1,435人の減少となっているのに対し、水洗化世帯数は104,958戸で前年度比490戸の増加となっています。人口が減少する一方、世帯数は増加傾向が続いています。

	水洗化人口(人)	前年度比(人)	水洗化世帯数(戸)	前年度比(戸)
平成30年度	229,638	△182	102,459	689
令和元年度	229,350	△288	103,308	849
令和2年度	228,759	△591	104,021	713
令和3年度	227,864	△895	104,468	447
令和4年度	226,429	△1,435	104,958	490

3. 水量

令和4年度末の有収水量は22,965,897^mで前年度比478,900^mの減少となっています。令和2年度に新型コロナウイルス感染症の流行による手洗いの増加等により有収水量は増加しましたが、令和3年度から2年連続で減少しています。

	総処理水量(^m)	前年度比(^m)	有収水量(^m)	前年度比(^m)	有収率
平成30年度	26,280,695	△166,105	23,235,779	△109,335	88.4%
令和元年度	26,720,597	439,902	23,183,140	△52,639	86.8%
令和2年度	29,411,516	2,690,919	23,730,936	547,796	80.7%
令和3年度	30,159,244	747,728	23,444,797	△286,139	77.7%
令和4年度	27,102,261	△3,056,983	22,965,897	△478,900	84.7%

4. 企業債

毎年度、多額の償還を実施していることから、企業債残高は減少傾向にあります。(千円)

	年度当初未償還額	発行額	償還額	年度末未償還額
平成30年度	23,587,501	927,900	2,538,279	21,977,122
令和元年度	21,977,122	814,800	2,468,275	20,323,647
令和2年度	20,323,647	845,800	2,520,006	18,649,441
令和3年度	18,649,441	1,138,550	2,403,462	17,384,530
令和4年度	17,384,530	1,088,750	2,305,400	16,167,880

5. 決算の詳細

(1) 収益的収入及び支出（損益計算書/税抜）

(千円)

区分	令和4年度	令和3年度	増減	前年度比(%)	備考	
収入	1 営業収益	2,802,374	2,970,681	△168,307	94.3	※1
	(下水道使用料)	(2,107,207)	(2,264,818)	(△157,611)	(93.0)	
	(雨水処理負担金)	(687,737)	(698,532)	(△10,795)	(98.5)	
	(他会計負担金)	(6,869)	(6,703)	(166)	(102.5)	
	(その他営業収益)	(561)	(628)	(△67)	(89.3)	
	2 営業外収益	1,286,681	1,008,780	277,901	127.5	※2
	(受取利息)	(5)	(62)	(△57)	(8.1)	
	(国庫補助金)	(298)	(167)	(131)	(178.4)	
	(他会計負担金)	(50,760)	(54,327)	(△3,567)	(93.4)	
	(他会計補助金)	(527,967)	(246,340)	(281,627)	(214.3)	
	(長期前受金戻入)	(702,315)	(702,635)	(△320)	(100.0)	
	(その他営業外収益)	(5,336)	(5,249)	(87)	(101.7)	
	3 特別利益	40,156	19,341	20,815	207.6	
(退職給付引当金戻入益)	(31,732)	(17,901)	(13,831)	(177.3)		
(過年度損益修正益ほか)	(8,424)	(1,440)	(6,984)	(585.0)		
計	4,129,211	3,998,802	130,409	103.3		
支出	1 営業費用	3,698,823	3,660,752	38,071	101.0	※3
	(人件費)	(148,988)	(154,282)	(△5,294)	(96.6)	
	(修繕費)	(174,835)	(163,504)	(11,331)	(106.9)	
	(委託料)	(147,206)	(154,460)	(△7,254)	(95.3)	
	(負担金)	(175,636)	(168,648)	(6,988)	(104.1)	
	(流域下水道維持管理費)	(896,036)	(867,058)	(28,978)	(103.3)	
	(減価償却費)	(2,128,508)	(2,124,911)	(3,597)	(100.2)	
	(その他営業費用)	(27,614)	(27,889)	(△275)	(99.0)	
	2 営業外費用	303,549	336,583	△33,034	90.2	※4
	(支払利息)	(250,996)	(301,376)	(△50,380)	(83.3)	
	(その他営業外費用)	(52,553)	(35,207)	(17,346)	(149.3)	
	3 特別損失	7,010	1,467	5,543	477.8	
	(損害賠償金)	(6,168)	(0)	(6,168)	(皆増)	
(過年度損益修正損ほか)	(842)	(1,467)	(△625)	(57.4)		
計	4,009,382	3,998,802	10,580	100.3		
当年度純利益	119,829	0	119,829	皆増		
繰越未処分利益剰余金	2,598,940	2,598,940				
未処分利益剰余金	2,718,769	2,598,940				
利益処分額(案)	0	0				

※1 (減額の内容) 基本使用料減免112,044千円、水量減等45,567千円。

※2 (令和4年度の内容) 基本使用料減免に対する一般会計繰入金123,249千円、
分流式下水道に要する経費(資本費×30%)404,678千円など

※3 (増額の理由) 電力料金の高騰のため。

※4 (減額の理由) 企業債残高が減少しているため。

(2) 資本的収入及び支出 (税込)

(千円)

区分		令和4年度	令和3年度	増減	前年度比(%)	備考
収 入	1 企業債	1,088,750	1,138,550	△49,800	95.6	
	(公共下水道企業債)	(452,300)	(314,200)	(138,100)	144.0	
	(流域下水道企業債)	(70,100)	(108,800)	(△38,700)	64.4	
	(資本費平準化債)	(566,350)	(715,550)	(△149,200)	79.1	
	2 国庫補助金	44,849	3,435	41,414	1305.6	
	3 他会計負担金	127,996	162,624	△34,628	78.7	
	4 工事負担金	2,469	2,366	103	104.4	
5 水洗便所改造資金回収金	190	140	50	135.7		
6 固定資産売却代金	0	276	△276	皆減		
	計	1,264,254	1,307,391	△43,137	96.7	
支 出	1 建設改良費	726,038	631,751	94,287	114.9	
	(公共下水道整備費)	(584,378)	(410,049)	(174,329)	142.5	※5
	(流域下水道整備費)	(107,496)	(192,471)	(△84,975)	55.9	
	(受益者負担金事務経費)	(8,450)	(8,419)	(31)	100.4	
	(固定資産購入費)	(25,714)	(20,812)	(4,902)	123.6	
	2 企業債償還金	2,305,400	2,403,462	△98,062	95.9	
	(公共下水道企業債償還金)	(1,430,774)	(1,594,845)	(△164,071)	89.7	※6
	(流域下水道企業債償還金)	(154,816)	(155,572)	(△756)	99.5	
	(資本費平準化債償還金)	(719,810)	(653,045)	(66,765)	110.2	
	3 貸付金	0	360	△360	皆減	
	計	3,031,438	3,035,573	△4,135	99.9	
資本的収支不足額		1,767,184	1,728,182	39,002	102.3	

補填財源	損益勘定留保資金	1,706,353	1,676,080
	消費税資本的収支調整額	60,831	52,102
	当年度同意債の未借入分	0	0

※5 (令和4年度の内容) 雨水事業

浸水対策事業	25,870千円
武庫川ポンプ場改築事業	27,500千円 など
汚水事業	
管路等更新事業	242,466千円
重要な汚水幹線の更新事業	133,763千円
未水洗化区域施設整備事業	44,454千円 など

※6 (減額の内容) 企業債残高減少による前年度比の減少。

6. 主要施策（雨水事業）

（1）浸水に対する取組

① 浸水対策事業 25,870千円

近年の想定を超えた大雨に対応するため、向月町地区の雨水排除能力の強化に取り組んでいます。また、雨水排水計画に基づいた安倉北地区の整備を行いました。

財源（千円）	
企業債	25,700
国庫補助金	0
他会計負担金	170
工事負担金	0
自己財源	0



場所	内容
安倉北	Φ300雨水管布設 L=144m
小浜5丁目	尼宝雨水幹線呑口部（ドロップシャフト）改良の詳細設計

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

② 調整池維持管理事業 8,888千円

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図っており、すみれが丘3丁目にある調整池について土砂浚渫等を行いました。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	8,888
工事負担金	0
自己財源	0



場所	内容
すみれが丘3丁目	土砂浚渫 420㎡ 除草作業 650㎡

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料

（2）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業 27,500千円

昭和50年の運用開始から45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、改築を行うため、耐震診断及び耐水化の計画を策定しました。

財源（千円）	
企業債	27,500
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	0



場所	内容
武庫川町	施設の耐震診断及び耐水化のための計画策定

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

7. 主要施策（汚水事業）

（1）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業 242,466千円

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を実施し、その結果を踏まえて更新を行います。今年度は、中筋、中山五月台など、17kmのカメラ調査を実施しました。

財源（千円）	
企業債	170,900
国庫補助金	44,849
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	26,717

場所	内容
中筋、中山五月台 外	管渠内清掃 L=17km TVカメラ調査 L=17km

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（2）耐震化の取組

① 重要な汚水管路の更新事業 133,763千円

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路を更新します。今年度は、向月町地区にある切畑污水幹線の耐震化工事を実施しました。

財源（千円）	
企業債	126,900
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	6,863

場所	内容
中筋6丁目 ～ 中筋7丁目	□400*800 BOXカルバート L=460m 管更生
向月町	コンクリート管 L=500m管更生

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（3）未水洗化区域解消の取組

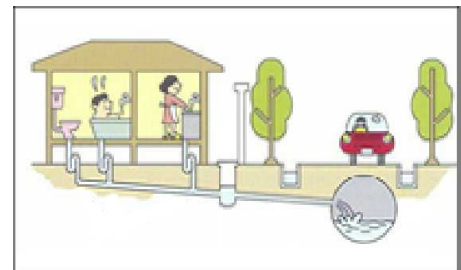
① 未水洗化区域施設整備事業 44,454千円

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるように、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組んでいます。今年度は、花屋敷荘園などに污水管を新設しました。

財源（千円）	
企業債	42,100
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	2,354

場所	内容
花屋敷荘園 山本野里2丁目	φ200污水管布設 L=50m
新明和町 外	流量計 N=2箇所

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



8. 管路の耐震化の状況

(1) 重要な汚水管路の耐震化率

下水道管渠が損傷した場合、使用者への影響が大きい管路や社会的影響が大きい緊急輸送路、軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率です。令和4年度は切畑污水幹線（延長L=497m）の耐震化に取組み、前年度に比べ7.2%向上したものの目標値を4.3%下回りました。実施予定であった山本野里1号污水幹線（延長L=1,366m）について、詳細設計に時間を要したため、繰越となり目標値に達することができませんでした。

（管路延長 L=6,900m）

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
目標値 (%)	36.6	43.1	47.4	57.9	68.4
実績値 (%)	30.6	33.8	40.7	56.9	64.1

(2) 汚水管路の耐震化率（全管路対象）

汚水管路総延長に対する耐震污水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。令和4年度は宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施しましたが、目標値を1.0%下回りました。今後も確実に汚水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

（全管路延長 L=522,813m）

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
目標値 (%)	19.5	19.6	20.5	21.4	22.4
実績値 (%)	20.1	20.3	20.6	21.2	21.4

※ 目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

9. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%超で利益が生じています。令和4年度は100%を超えています。

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
経常収支比率 (%)	113.6	110.3	106.1	99.6	102.2

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和4年度は純利益を達成できました。未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。なお、令和3年度の純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。令和4年度の他会計補助金は「汚水に係る資本費の30%」を受け取っています。

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
当年度純利益 (千円)	709,704	410,656	239,675	0	119,829
未処分利益剰余金 (千円)	1,948,609	2,359,265	2,598,940	2,598,940	2,718,769

(3) 借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和6年度までは借入が必要と見込んでいます。しかし、令和7年度以降、企業債償還元金の減少により資金不足が解消され、それまでの借入金を少しずつ返済できる見込みです。

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
借入金残高 (千円)	370,000	370,000	670,000	970,000	1,270,000

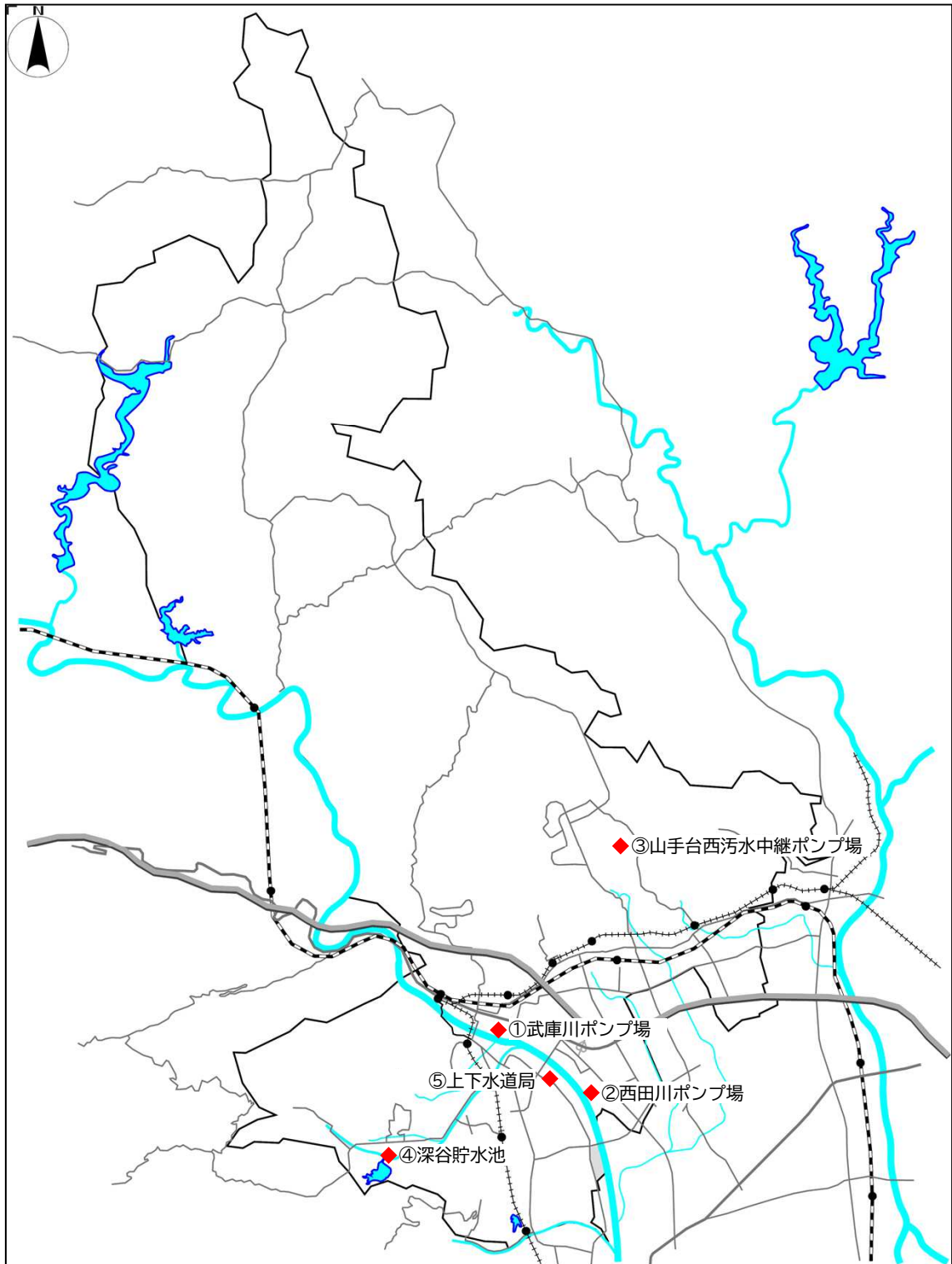
(4) 汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は1m³あたりの平均収益、汚水処理原価は1m³の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
使用料単価 (円)	97.4	97.2	87.1	96.6	91.8
汚水処理原価 (円)	110.0	112.1	108.4	112.3	114.4
差引 (円)	△12.6	△14.9	△21.3	△15.7	△22.6

10. 主な下水道施設の一覧と職員の配置状況

(1) 下水道施設位置図



(2) 職員の配置状況

令和5年3月31日現在

	施設名	所在地	職員の配置	備考
①	武庫川ポンプ場	武庫川町6番1号	0人	雨水ポンプ場
②	西田川ポンプ場	安倉西2丁目3番15号	0人	雨水ポンプ場
③	山手台西汚水中継ポンプ場	山手台西3丁目7番1011	0人	汚水ポンプ場
④	深谷貯水池	蔵人字深谷1390番地2	0人	
⑤	上下水道局	東洋町1番3号	上下水道事業管理者 1人 (0人) 上下水道局長 1人 (0人) 経営管理部長 1人 (0人) 施設部長 1人 (0人) 阪神水道企業団派遣 1人 (0人) 総務課 10人 (2人) 経営企画課 4人 (1人) 浄水課 7人 (0人) 工務課 26人 (0人) 給排水設備課 15人 (5人) 下水道課 14人 (14人)	

()内は、うち下水道事業会計職員 合計22名